みんなで育てている空気感を味わってほしい
～これから地域で活動を始める方へ～

特定非営利活動法人　西賀茂プレイセンターＦＫＣ
理事長：杉本　亮子　さん

地域で活動するために、一番大切なことは対象としている人々を大切にする事だと思います。そして「作って終わり」じゃなく，継続する事を意識してほしいです！（杉本さん）

賀茂川に沿って北上し，のどかな住宅街の中を進んでいくと，「このゆび　とーまれ」と書かれた大きな看板を掲げ，子どもたちの楽しそうな声であふれている民家が見えてきます。

特定非営利活動法人西賀茂プレイセンターＦＫＣは，就学前の乳幼児の親子を対象に，子育て中の親子が気軽につどい，交流できる場の提供を行っています。その他に３世代交流事業として，高齢者とセンターに来ている乳幼児やその親とが昔の遊びなどを通して交流できる事業を展開しています。

活動には元保育士・助産師の方々がボランティアスタッフとして関わっており，またプレイセンターを卒園した幼児の親がスタッフに回るという循環も生まれています。

元々は毎週火曜日の午前中のみ開館していましたが，現在は京都市の事業である，「つどいの広場（京都市子育て支援活動いきいきセンター）」の認定を受けて，毎週火曜日～土曜日の 10 時～16 時の間，子どもたちとその親と高齢者の３世代が交流できる場として開館しています。

■活動を始めようと思ったきっかけ■

プレイセンターの拠点となっている民家は，元々杉本さんのご両親が住んでいた自宅でした。ご両親も引っ越しを検討しており，この家が空家になるという事で何かに活用できないかと考えていたところ，杉本さんの母親が「子どもたちの支援をしたい」と思い立ち，まずは小さなお子さんをお持ちのお母さんたちがお子さんを連れて遊びに来れる場所としてオープンしました。最初からすべて整っていたわけではなく，足りないところはその都度補いながら活動していました。

「ＦＫＣ」とは何の略か，率直に質問してみると，「自宅を使う事を父に了承してもらうために，そういう名前を付けたんです。」と意外な答えが返ってきました。ご両親の名字である「福知（ＦＵ・ＫＵ・ＣＨＩ）」から頭のアルファベットをとって団体名にすることで，自宅の使用を納得してもらったそうです。「父が遊びに来た時にこの家の持ち主の福知さんですって紹介したら，すごく嬉しそうにしていました。」と当時を振り返っておられました。

■ＮＰＯ法人を取得した理由■

ＮＰＯ法人として活動を始めようと思った理由として杉本さんは，「単純に活動内容を説明しやすくなるかと思って，ＮＰＯ法人格を取得したんです。」と笑って応えてくださいました。

まずは週に１回子育てしている人の支援をしようと思い，任意団体として活動を始めていたのですが，当時の北区では乳幼児等を対象とした集いの場の展開を行っている団体の前例があまりなく，活動内容を理解してもらう事がとても大変でした。

そこで，ＮＰＯ法人格を取得すれば，信頼性も得ることができると考え，オープンして１年後の2005 年にＮＰＯ法人格を取りました。その１年後の 2006 年に京都市より「つどいの広場」として委託を受け，現在の活動に至りました。

北区に同じ活動をしているところがあまり無かったので，たくさんの利用者があったそうです。現在は児童館や保育園，幼稚園などもオープンスペースを設けるなど，様々なところで受け入れ先ができてきたため，始めたときに比べたら落ち着いた人数になっているそうです。

立ち上げた当初は，地域の中での受け入れが思うように進みませんでしたが，スタッフの方々が根気強くポスティングなど，近隣住民を回って説明してくれたり，連携している旭ヶ丘保育園の協力もあり，現在では認知も進み，民生委員の方々も協力的になり，また柊野学区の地域の防犯パトロール隊の方も，月に数回見回りにも来てくれるようになったそうです。

■地域密着型の取組■

現段階で自治会・町内会との連携については，プレイセンターを運営していくことに集中したいとの思いから，相互に情報交換をしている程度に留まっています。とはいえ，活動自体は地域密着型で，近隣地域にお住まいの子育て中のご家族を対象に事業を展開されています。「密着しているのはどちらかというと自治会･町内会というよりは，この地域に住んでいる住民のみなさんとですね。」そう語る杉本さん。来られている乳幼児やその親など，プレイセンターが対象としている人々を大切にしています。

■今後の展開について■

「プレイセンターは小さい子の受け皿。うちで大きくなった子がゆくゆくは地域の中で実施している各種取組に参加・貢献していくという関係ができれば良いと思います。」と語られました。

また，プレイセンターは子育て支援の場ですが，「親を支援する事が子育て支援につながる」という理念のもと，親の支援も様々な形で実施しています。利用している親との人間関係ができてきたこともあり，少しずつ子育てについてのアドバイスをしたり，母親同士の交流やプレイセンターのスタッフとの交流・相談など，多様な支援を実施しています。

「地域のより多くの方にここを知ってもらい，よその子も自分の子も隔てなくみんなで育てているんだって空気感を味わってほしいですね。」と杉本さん。希薄になっている住民同士のつながりをもう一度取り戻すためにも，乳幼児と親たちの癒しの場であり続けたいと，日々活動しておられます。